

1 学校教育目標について

「自ら学ぶ生徒」「心豊かな生徒」「たくましい生徒」
〈学校生活重点目標〉「時を守り、場を清め、礼を正す」

学校教育目標は、その学校の目指す教育の在り方です。本校は、昭和40年(1965)、当時、大利根村立の3つの中学校が統合し、「大利根中学校」として誕生、今年度で60年目を迎えました。

創立当時の学校教育目標は「個性豊かな民主的な実践人(健康な人)(民主的な人)(生産的な人)(文化的な人)」というものでした。その後、時代の変遷の中で何度か文言等が変わりながら、今の学校教育目標となったのが平成27年(2015)です。

2 本年度の目指す学校像について

「生徒が自ら感じ、考え、いきいきと活動する学校」

大利根中学校に根付いている生徒会活動を中核とした自治的精神による様々な活動は、素晴らしいと感じています。本校では、多感な中学生期の子どもたちがもつ豊かな感性を敏感に察知し、学校行事をはじめとした様々な場面でそれを磨き、伸ばして、学校全体を活性化するプラスのパワーに変えていけるよう支援します。

また、これを学級経営に反映させ、学級活動にまで浸透させることができれば、クラスの誰もが自己有用感の下で生活を送る、居心地の良い教室環境の創造にもつながると考えます。

(1) 健康、安心・安全と環境の整った学校

どの御家庭でも、自分の子への究極な思いは、子どもの健康と安全だと思います。朝、子どもが楽しく登校する、御家庭では安心して送り出す。放課後は子どもが明るい表情で無事に帰宅し、御家庭でそれを迎える。当たり前前の日常とも言えますが、それを期待通り年間通じて完璧に達成するのは困難なことです。

一方、一般的な感覚は、安心・安全であることが当たり前です。学校は閉鎖的な空間、先生がいるから大丈夫といった安全神話は未だ現存すると思います。

心と体の健康の保持増進や、安心と安全に係る業務は、地道な積み重ねが必要な取組ですが、万が一これが崩れたとき、その代償はとて大きいものです。ですから本校では、子どもたちに対する心と体のケア、安全指導、安全な学校環境づくりについて、着実に実践していくよう努めます。そのために、①危機管理意識を高めて「先を想定すること」、②子どもの危険に関する感覚を磨き、先に気づいて未然に防ぐこと、③起きたときの初動体制について「適時」「的確」「迅速」な行動がとれるようすることが重要と考えます。

(2) 活力に満ちた学校

子どもたちがいきいきと楽しく活動できている学校は、そこにいっただけで、活力というか「勢いの空気」を感じることができます。①潤いのある学級経営と②積極的生徒指導を基盤にして、学校行事や委員会活動、学級活動などの機会を上手に活用しながら、一人一人の生徒に活躍の場を与え、それぞれのよさ(個性)を伸ばせるよう努力します。それには、子どもたちの以上に元気な教職員であることが求められると考えます。

(3) 学ぶ力のつく学校

今の子どもたちには、基礎的・基本的な知識と技能を習得するとともに、それを活用しながら自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果を表現し、さらに実践に生かしていけるようにさせることが大切だといわれます。それには、子どもたちが意欲的に、能動的に学習に取り組むように仕向ける必要があります。そのための“仕掛け”（指導法）を工夫して、子どもたちの学ぼうとする意欲、学びたいという気持ちを喚起し、学ぶ力を伸ばします。

3 教育活動を推進するための重点及び方策について

●学校-保護者、学校-地域等との連携による学校教育活動の強化・推進

- (1) 安心・安全と潤いのある環境づくり
 - ア きれいで花のある環境づくりの推進
 - イ 心身の健康の保持増進。
 - ウ 安心・安全で規律ある生活態度の育成
 - エ 安全指導（特に交通安全）の充実
 - オ P T A活動等への積極的参画による win・win の関係づくり
 - カ 地域に根ざし、地域から愛される学校づくりと生徒の育成
- (2) 元気と思いやりに満ちた集団づくり
 - ア 笑顔でさわやかなあいさつの励行
 - イ ノーマライゼーションの理念に基づくインクルーシブ教育の推進
 - ウ 道徳の授業に集中できる生徒の育成と指導法の工夫・改善
 - エ 学校行事に燃える集団の育成
 - オ 活発な部活動への取組の推進
 - カ 自他の人権を尊重する生徒の育成
- (3) 主体的な学びを引き出す授業づくり
 - ア 真剣に学ぶ気持ちの醸成
 - イ 生徒一人一人を伸ばす授業づくりと学力向上の推進
 - ウ I C T活用の定着と内容の充実
 - エ 自分の生き方を考え、将来像を創り出すための進路・キャリア教育の推進
 - オ 「リンクミーティング」の推進による学校間交流の充実と地域の子供像の共有

4 目指す教職員像について

- (1) 教育公務員としての自覚をもち、自己を律する職員
 - ・信用失墜行為の防止（交通事故、非違行為、情報漏洩、金銭事故…）：公務員としての在り方
 - ・指導力の向上
- (2) 「学ばせ、身につけさせる専門性」に長けた教職員
 - ・研修に励み、よい授業（伸ばす授業）を創造する
 - ・よく気付き、創意工夫を継続する
- (3) 人間性豊かな魅力ある教職員
 - ・愛情をもつ（子どもたちへの愛情、教育への熱意）
 - ・真心で接し、優しさと厳しさを育てる
 - ・率先垂範（背中で教える）
 - ・使命感をもち、「輪」と連携をたいせつにする
 - ・児童事故の対応：誠意ある対応

5 令和6年度研究主題について

「生徒の意欲を引き出し学力を高めるための境界指導の工夫」(2年次) —基礎学力の向上と家庭学習の習慣化を図る取組を通して—

昨年度、本研究主題の下、研究発表をすることができました。発表日当日は、市内各校から多くの参加者を得て、積み重ねてきた取組の成果を披露すると共に、研究に対する指導・講評もいただき、新たな課題や、今後目指すべき方向性をご示唆いただきました。

今年度は、昨年度の研究主題を継承し、御指導、御示唆いただいたことを元にしなが、さらに内容を充実していきます。研究のための研究に終わらないよう、取組の定着化を目指します。